

LipoTEST Case Report vol.4

2009年7月

Case4: 原発性の脂質代謝異常を示した若齢犬の一例

【Profile】

- ・動物種: 犬
- ・品種: マルチーズ
- ・性別: 雌(子宮卵巣摘出済み)
- ・月齢: 6ヵ月齢
- ・体重: -
- ・B.C.S=3/5(標準)

■病歴:

健康診断時の血液検査にてT-ChoとTGの高値が認められたが、診断時には特に臨床症状は無く、低脂肪食にて2週間の管理をしても改善が見られなかった。

【検査】

■院内検査

○身体検査

- ・特に特徴的な異常無し。

○血液検査

- ・脂質の異常な高値(T-Cho =424 mg/dl、TG=673mg/dl)

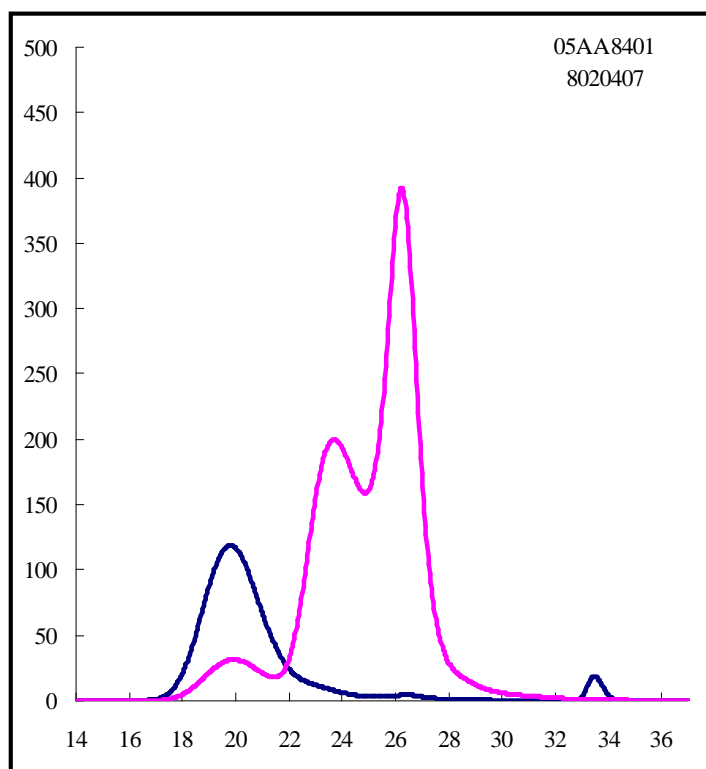
○甲状腺機能検査、副腎皮質機能試験

- ・共に異常なし

■LipoTEST検査所見(1回目)

分類: パターン3・複合型

VLDL-TGの増加とLDL-Choの著しい高値を示した。



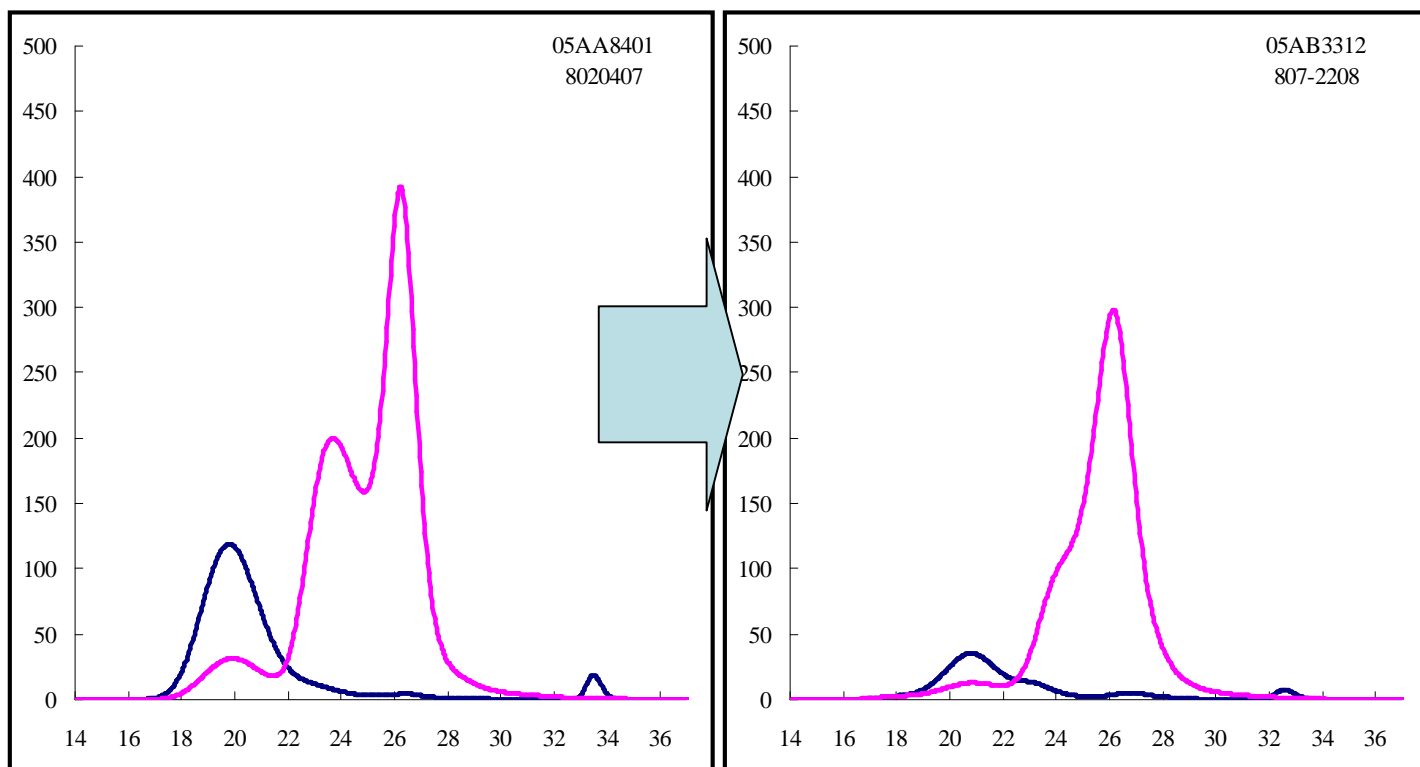
【治療計画】

- ・ LipoTESTの結果と、甲状腺機能検査、副腎皮質機能試験から原発性の脂質代謝異常が示唆された。
- ・ メバロチン(1mg/kg)とエラスチーム(1800U/head)の投与でも効果が認められず、メバロチン(5mg/kg)まで増量し1ヶ月でも効果が認められないため薬剤を変更した。
- ・ リポクリン(7.5mg/kg/BID)に変更後、第45病日に再検査を行った。 ⇒ 裏面に続く

【LipoTEST 波形データの変化】

～ 1回目結果 ～ 第1病日

～ 2回目結果 ～ 薬剤変更後第45病日



【解析結果に基づく治療への評価】

- メバロチンとエラスチームの投与では効果が認められなかったが、リポクリン (7.5mg/kg/BID)に変更する事で、VLDL-TGの高値、LDL-Choの高値共に改善し、ほぼ正常値となった。1年経過後もT-Cho、TG共に正常を維持し、より安定した改善が認められた。
- 今回の症例は、甲状腺機能、副腎皮質機能などの内分泌異常が認められない原発性の脂質代謝異常と思われた。 症例提供: 関内どうぶつクリニック 牛草貴博先生 (神奈川県)

◆LipoTESTに関するお問合せ先 スペクトラム ラボ ジャパン 株式会社

* 検体送付キットの請求は、下記記入のうえ、FAX (03-5731-3631)にてご返送下さい。

病院名		氏名	
住所		TEL	

詳しい情報に関しては、LipoTEST Webをご覧ください。URL: <http://www.lipotest.jp/>